

令和6(2024)年度

大阪府高視研と放送コンテスト委員会の歩み

大阪府高等学校視聴覚教育研究会

目 次

大阪府高等学校視聴覚教育研究会事業報告	1
大阪府高等学校視聴覚教育研究会役員、異動ならびに会員消息	2
<研修会・講座・講習会>	3
高校生のための放送技術講座	
第1回 付：アンケート結果	3
第2回 付：アンケート結果	6
第3回（芸文祭と併催）付：アンケート結果	9
第4回 付：アンケート結果	11
<放送コンテスト関係>	
大阪府高校放送コンテスト大阪大会	
実施報告（課題原稿・審査員一覧含む）	15
参加状況一覧	17
決勝・全国大会結果一覧	19
<芸術文化祭関係>	
第44回大阪府高等学校芸術文化祭 放送文化部門	21
第43回近畿高等学校総合文化祭（三重大会）放送部門	22
第47回全国高等学校総合文化祭（鹿児島大会）放送部門	22
<大会および研修会>	
第73回近畿放送教育研究大会・第74回近畿学校視聴覚教育研究大会	23
兵庫大会（二次案内および結果報告）	
公式サイト等のご紹介	28

令和6年度 事業報告

(1) 総会および研修会

①総会

令和6年 5月22日(水) ※Zoom 開催

(2) 講座および講習会

①高校生のための放送技術講座

第1回 令和6年 4月21日(日) 大阪府立今宮工科高等学校

第2回 令和6年 8月25日(日) 四天王寺東高等学校

第3回 令和6年11月 3日(日) 桃山学院大学あべのキャンパス

第4回 令和6年 1月26日(日) 相愛高等学校

②放送クラブ指導者講習会／教員研修

令和6年 4月21日(日) 放送コンテストについて 大阪府立今宮工科高等学校

※校内放送指導者講座 12月26日(木)～27(金) 東京都 千代田放送会館

(3) 放送コンテスト関係

第71回 NHK杯高校放送コンテスト大阪大会

令和6年 6月 1日(土) 番組部門予選 府立今宮工科高校 ※データ審査

2日(日) アナウンス・朗読部門予選 阪南大高校

令和6年 6月 9日(日) 全部門決勝 相愛高校

関 連 行 事

(1) 大会および研修会

①近畿放送教育研究協議会夏期特別研修会 ※今年度は実施せず

②第73回近畿放送教育研究大会／第74回近畿学校視聴覚教育研究大会 兵庫大会

令和6年11月22日(金) 神戸市立なぎさ小学校(全体会場を兼ねる)

兵庫県立尼崎北高等学校(中学・高校共同)

③第27回視聴覚教育総合全国大会／第74回放送教育研究会全国大会

令和6年11月 9日(土) ※WEB方式で実施

(2) 第71回NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会

準々決勝 令和6年7月23日(火) 代々木オリンピックセンター ※番組はデータ審査

準決勝 7月24日(水) 代々木オリンピックセンター

決勝 7月25日(木) NHKホール

(3) 芸術文化連盟関係

①第48回全国高等学校総合文化祭放送部門

令和6年 8月 2日(金)～ 3日(土) 岐阜県多治見市 バロー文化ホール

②第44回近畿高等学校総合文化祭放送部門

令和6年11月24日(日) 福井県福井市 福井県国際交流会館

③第45回大阪府高等学校総合文化祭放送文化部門

令和6年11月 3日(日) 桃山学院大学あべのキャンパス

令和6年度 役員

会長	小畑 敦彦	大阪府立平野高等学校校長	
副会長	浜田 佳樹	大阪府立成美高等学校校長	
	岸本 尚子	阪南大学高等学校長	
会計監査	秋本 みゆき	大阪府立いちりつ高等学校教諭	
	大西 篤史	相愛高等学校教諭	
書記	久下 哲也	大阪府立池田高等学校教諭	
	伊藤 元也	四天王寺東高等学校教諭	
会計	酒井 学	大阪府立堺西高等学校教諭	※事務局を担当
	藤田 大輔	阪南大学高等学校教諭	
顧問	西田 恵二	大阪府立東住吉高等学校校長	
	伊藤 範子	大阪府立桃谷高等学校校長	

役員異動ならびに会員消息（令和7年4月1日現在）

浜田 佳樹 大阪府立東百舌鳥高等学校校長……………府立藤井寺高校校長へ
 久下 哲也 大阪府立池田高等学校教諭……………（再任用）同校教諭

本研究会の役員や放送コンテスト委員長を長年にわたってお勤めくださった、
 東海大学付属大阪仰星高校の瓦林朗先生が、令和6年9月19日、58歳にてご逝去されました。
 ご冥福をお祈りいたします。

高校生のための放送技術講座（１）実施報告

〔１〕会場・日程

４月２１日（日） 今宮工科高等学校

時間	アナウンス	朗読	番組
９：３０	（ 受 付 ）		
１０：００	コンテスト参加にむけての諸注意A 全体説明&アナ朗編 （生徒・顧問対象）		
１０：３０	アナウンス・朗読のための基礎講座 （生徒・顧問対象）	コンテスト参加にむけての諸注意B 番組編 （生徒・顧問対象）	
１２：００	（昼休み）		
１３：００	アナウンス技術講座 講師：安田知博 先生	朗読技術講座 講師：仲山豊秋 先生	番組技術講座 （ドキュメント・ドラマ） 講師：井村慎介 先生 高視研役員
１６：００	（片付け・撤収）		

〔２〕講座内容等について

（１）午前「コンテスト参加に向けての諸注意」

第71回NHK杯全国高校放送コンテストに参加するために、知っておくべき情報を伝達しました。

諸注意Ａ：コンテストへの参加を考えているすべての学校対象

諸注意Ｂ：番組部門参加予定校対象

（２）午前「アナウンス・朗読のための基礎講座」

放送部活動のアナウンサーに必要な基礎技術や心構えを、実習を通して学びました。

（３）午後「放送技術講座」

・アナウンス講座 講師 安田知博先生（放送部インストラクター）

自作原稿の書き方・読み方の指導、話題探しや取材など、アナウンスに必要な要素を網羅した講座を行いました。

・朗読講座 講師 仲山豊秋先生（元NHKアナウンサー）

一般的な講習の他に実技指導も行いました。人数が多く、時間が足りないため、個別指導は各学校１名ずつに絞らせていただきました。

・番組講座 ドキュメント 講師 井村慎介先生（関西テレビ放送）

ドラマ 講師 コンテスト委員

コンテストに提出予定のドキュメントやドラマに対して、講師の先生から個別にアドバイスを受ける機会を設けました。

〔３〕参加数 〔午前〕アナ朗基礎：１１６人 番組交流会：２２人 顧問：４８人 合計１８６人

〔午後〕アナウンス：４４人 朗読：５１人 番組：２０人 顧問：３２人 合計１４７人

〔４〕アンケート結果（抜粋）

<諸注意>

- ルール順守を誓いました。
- ミス対策が具体的に考えられてよかった。
- 大会についての理解が深まった。
- 諸注意を再認識することができた。

<午前の基礎講座>

- 基礎的なことについてわかりやすかった。
- できればもう少し詳しくやってほしかった。
- 放送の基礎をあらためて学ぶことができてよかった。
- 他校の活動も知ることができてよかった。
- 他校の生徒と相談しながら文章をつくれたことがよかった。
- イントネーションや区切り、塊について知れたことが良かった。
- 放送における言葉遣いを知ることができた。
- 基本から振り返ることができてよかった
- 他校と交流できて良かった。
- 他校の状況が知れてよかった。
- 他校の生徒と一緒に原稿を考えたことが楽しかった。
- マイクを通して話すことで、今の自分を知ることができた。
- 文章を読むコツや文章の作り方について知れて、楽しかった。
- 大会だけでなく、お昼の放送にも生かしていきたい。
- 情報の優先順位などを学べた。
- アナウンスは朗読にも応用できそうだと感じた。
- かみ砕いて説明していただけたので、とても分かりやすかった。
- 緊張したが、来てよかった。
- 「まとめて、伝える」ということにまだ慣れていないと感じた。

<アナウンス>

- 意味の塊を意識することを知った。
- 原稿で悩んだところを指摘してもらったので、参考になった。
- 聞き手の興味をひいてから必要な情報をいうべきだと気づいた。
- 講師の方や、隣の生徒から原稿を作成するコツを教えてもらうことができてよかった。
- 他校の先生や生徒、講師の先生に教えてもらえてよかった。
- とにかく声に出して実践することの大切さがわかった。
- アナウンス原稿としての文章の書き方を学ぶことができた。
- 他校の生徒とぶつかりあって練習することで、自分一人ではえられなかった客観的な意見をしることができた。また上手な人の意見を吸収することができた。
- アナウンスの基礎を知ることができた。
- 相手の情報を伝える際には、内容の他にも、発音やブレスの位置が大切だと知った。
- 自分では気が付かなかった発音のクセを知ることができた。
- 文を切りすぎていたり、文末が上がっていることに気づけた。
- 初めて聞いた人の感想が貴重だということに気づけた。
- 諦めずに取り組んでいこうと思った。

<朗読>

- 作品によって表現の仕方や声の大きさ、強弱のつけかたが違うということが分かった。
- 腹から声が出ていないことに気づけた。
- アドバイスが的確で、指導された生徒もすぐにできるようになって感心した。
- 読みの基礎を見直したいと思った。
- 声のトーン、間の取り方など変化の重要性、作品全体の雰囲気にあったしゃべり方など、勉強になった。
- 聞くだけでも、よい学びになった。
- 自然な読みにするためのヒントがたくさんあった。言葉にあった表現を模索していこうと思った。
- 人数が限られているのが惜しいが、元アナウンサーをお呼びすることは非常によいと思った。

- 基礎が知れて良かった。
- 間の取り方が大切だと思った。
- 口だけで声を出すのではなく、腹から声を出すことが大切だと知った。
- ワンフレーズ、ワンワードにもっとこだわりたい。

<ドラマ講座>

- 人物の人間関係をつめることが大切。
- テレビの特性を利用することが大切。
- 制作代表者以外も全体を把握しておくことが必要。

<ドキュメント講座>

- 自分の視野が狭くなっていることに気づけてよかった。
- メモをとることが大切だと知った。

<全体・その他>

- コンテストへの不安を打ち消してもらえた。
- Nコンは先生方が作った大会だと知れて良かった。
- 短い時間でしたが、自分の弱点をすることができてよかった。
- 成長を肌で感じることができた、中身のつまった3時間だった。
- 自分の成長につながったと思う。
- 初心者ですが、コンテストから発音まで丁寧に教えていただけたのでよかった
- はじめての学びがたくさんでとてもワクワクした。
- 人づきあいが得意ではないので、色々な人と話す機会があるのが嬉しい。
- 初めての参加で不安でしたが、ただの杞憂でした。次回も参加したい。
- もう少し話す機会がほしい。
- 具体的な説明で聞きやすく、飽きなかった。
- 本当に来てよかった。
- やるべきことに気づけて良かった。
- 交流の場が多いのは良いが、朗読の場もっと増やしてほしい。
- このような交流の機会をぜひ増やしてほしい。
- 午前中の、自分たちで考えて情報を整理する講座が非常に良かった。また実施してほしい。
- Nコンに必要な情報を一日で知ることができて、有難かった。とても充実した内容だった。
- 「放送」というものがすごく好きになった。
- 今年はじめて技術講座を受けましたが、想定していたよりアクティブな講座でとても楽しかったです。
- 発音・姿勢・呼吸法の講座がほしい
- このように集まる機会がもっとあればよいと思った。
- 鼻濁音の出し方を学びたい。
- 座席は、先生方で先に決めておいた方が、時間の短縮になると思った。
- この時期にこのような講座があって、本当に助かった。
- 他校の生徒と朗読を聞きあって、アドバイスしあえる講座。
- 録音などを事前に送ってアドバイスをもらえると、生徒間でも音源の共有ができてもいいと思った。
- 公開指導なので仕方がないが、自分の原稿を読む時間が少なかったことが残念だった。
- 1年生の時から参加しておけばよかった。
- できれば、全員で前に出てアナウンスをしたかった。
- この大会を通じて得られるものが大切だと、会長さんから学びました。結果も大事だけど、大会に向けた練習や仲間とのコミュニケーションが社会に出たときにやくだつと思った。

高校生のための放送技術講座（２）実施報告

〔１〕会場・日程

８月２５日（日） 四天王寺東高等学校
９：３０～１０：００ 受付
１０：００～１１：００ 全体講座「Ｎコン スタートアップ講座」
（ＮＨＫ杯第７１回大会のふりかえり）
１１：１０～１２：３０ 全体講座「放送部の活動 超入門編」
１２：３０～１３：３０ 昼休み
１３：３０～１６：００ アナウンス・朗読講座・交流会
１３：３０～１６：００ 番組講座 番組相談会・交流会

〔２〕講座内容

Ｎコンスタートアップ講座

第７１回大会のふりかえりと、第７２回大会のスタートアップにつながる講座です。

次年度のＮコンへの準備や放送部の活動・練習法について、高視研役員が説明しました。

全体講座 講師 井村慎介先生（関西テレビ放送）

高校時代に放送部員として活躍された井村先生から「放送部の活動とは何か」という基本的なお話をいただきました。

アナウンス・朗読講座 講師 仲山豊秋先生（元ＮＨＫアナウンサー）

元ＮＨＫアナウンサー仲山豊秋先生に公開個別指導をいただきました。

番組講座 講師 井村慎介先生（関西テレビ放送）・高視研役員

井村慎介先生・高視研役員を交えての番組相談会・交流会を行いました。

〔３〕参加数

申込校数	２４校	生徒	９７人	顧問	３１人
アナ・朗	生徒	７７人	顧問	１６人	
番組	生徒	１７人	顧問	１５人	

〔４〕アンケート結果（抜粋）

<Ｎコンスタートアップ講座>

- 伝えることが大切。
- 抽出は早く決める方がいい。
- Ｎコンで上位入賞した人の言葉には温かみがあって、普段からの行いが大切だとあらためて思った。
- 全国大会に出場した人の感想はためになった。
- 役とナレーションでの声の切り替えがすごいと思った。
- 実際にアナウンス・朗読を聞くことができて良かった。朗読のクオリティが高くて驚いた。
- 不思議な引力があって、引き込まれた。
- 決勝に進出した方のアドバイスがとてもよかった。
- どんな思いをもってＮコンに取り組むべきか知ることができてよかった。
- 同じ高校生からのアドバイスは実践できそうなことばかりでためになった。
- 「聞き手を意識」して「伝える」ことの大切さがわかった。
- 本番前の取り組みもきけたので、参考にしていきたい。
- たくさんの人にきいてもらうことが大切だとわかった。
- 表情、目線、間のとりかたなどが参考になった。

- 正しく読むことより、伝えることを大切にしていることがよくわかった。
- あんなに真剣にコンテストに取り組んでいる人がいることがわかった。
- 他校の先輩の想いに心動かされるものがあった。

<放送部の活動 超入門編>

- 取材のコツ、質問のコツがわかった。
- 手法や考え方を知れてよかった。
- 音楽放送の順番を考えると発想がなかったので、聞けてよかった。
- 自分の学校でも実践してみようと思った。
- 進行が少し早かった。
- 「紙とペンのみ」の取材を入れてみるのも良いことや、編集で文字起こしをしてから入ると効率的な時間の使い方ができるとわかった。
- 相手に伝える使命感がわいてきた。
- 1%の楽しいのために99%の苦しみを耐えることは放送部員に共通だと知れてよかった。
- メモと質問力の大切さがわかった。
- 疑問に思ったことは放置しない。日常生活でも生かせることだと思った。
- 「相手に伝える」ことが大切だとわかった。
- 番組を作ろうと思った。

<アナウンス講座>

- 相手に伝えるためのアナウンスが大切だとわかった。
- 友人ができてうれしかった。
- 他校の練習方法を知ることができて参考になった。
- 自分の読みの魅力と課題の両方が見つかって、これらかの練習の刺激となった。
- 自然に話す方法がわかった。
- 一人ひとりへのアドバイスが細かくて、わかりやすかった。
- 「読まずに語る」という言葉が印象的だった。
読点にとらわれない、文末を早くすることなど、普段できていることが放送になるとできないことを自覚した。
- 普段気づかないところを指摘していただいて、よかった。
- みなさん優しくして話しやすかった。
- 聞いているだけでも参考になった。
- 「一息で」など、具体的なアドバイスばかりで本当にためになった。
- 「伝えたい気持ちを声に出す」というアドバイスが参考になった。
- 他校の様子を知れてよかった。
- 一定の速さにならないことが大切。

<朗読講座>

- 間の取り方がよくわかった。
- 自分は原稿を読んでいるだけで、表現がつけられていないと思った。
- 聞いて絵を思い浮かべることが朗読だと思った。
- 声の出し方、音程の取り方などとても参考になった。
- ワンパターンだと伝わらない。高低など変化をつけることが大切だとわかった。
- 「文章を動かす」ことを意識して朗読講座を受けることができた。
- 公開指導だけでなく、生徒同士での教えあいをしたかった。
- もう少し部門別の講座に時間を割いてもよいと思った。

- 最初は緊張したが、最後の方は楽しんで聞くことができた。
- 他の人のアドバイスを聞くだけでも参考になるとわかった。
- 私の朗読もきいてほしかった。
- 的確なアドバイスで、すぐに上手になることがわかった。
- 交流会で全国大会に出場した人と話せたことがよかった。

<ドキュメント講座>

- モチベーションにつながった。
- スケジュールなどが感想になった。
- ビフォーアフターが面白かった。
- 基礎的な部分がよくわかり、勉強になった。
- 番組作りの奥深さがわかった。
- 山と谷が大切。反対意見も取り入れる。
- 質疑応答の時間がよかった。
- グループワークがあって良かった。
- ドラマでも主人公を決めて伝えたいことを明確にしてから構成を考えることが大切だと思った。
- 午後の講座が長めの方がよかった。
- 構成をみんなで考えたことがよかった。

<全体・その他>

- 滑舌を鍛える講座をひらいてほしい。
- 講評時間多めの講座があると嬉しいです。
- みんなでアナウンスのアドバイスをしていくこともよいと思った。
- 交流の時間が多かったので、他の学校の様子を知ることができてよかった。
- 「発声・発音」「イントネーション」「テンポ」など大会の評価をピンポイントで選んで長所に変えられるような講座がほしいと思った。
- 個人レッスンの機会がもう少しほしかった。
- 交流会にももう少し時間が欲しかった。
- もっと色々な人と関わって話したかった。
- 初めて参加したが、もっと交流の時間を増やしてほしいと思った。
- 交流会では、もう少し練習について聞きたかった。
- 初参加でしたが、非常に充実した講座だった。
- 時間は守ってほしい。
- 編集の方法や機材の使い方の講座がほしい。
- ドラマの講座がほしい。
- 質疑応答もあり、どの講座も受け身にならずに勉強となり、良い構成だった。
- 人見知りな私でも楽しく過ごすことができました。
- 他校との交流の機会があって非常によかった。
- 相愛の練習を参考にしたいので、動画とかで教えていただきたい。
- 番組部門にも交流会がほしい。
- 動画編集講座
- もっと色々な作品をみてみたい。
- 個別相談や交流会を番組講座でも行ってほしい。
- チーム大阪で大きな番組をつくってみたい。

〔１〕会場・日程

11月3日（日） 桃山学院大学 大阪あべのキャンパス
09:30～10:00 【芸文祭】受付
10:00～10:15 【芸文祭】開会式
10:20～12:50 【芸文祭】アナウンス部門・朗読部門・番組部門公開審査
13:50～15:50 技術講座（アナウンス・朗読・ドキュメント）
16:00～16:30 【芸文祭】結果発表・表彰・閉会式・代表推薦者・推薦校への連絡

〔２〕講座内容・参加数

・アナウンス 講師：安田知博先生 参加38人
・朗読 講師 仲山豊秋先生 参加35人
・ドキュメント 講師 井村慎介先生 参加21人 合計 20校94人

〔３〕アンケート結果（抜粋）

<アナウンス講座>

- アクセントのことなど、参考になった。
- 放送の基礎がよくわかった。
- グループで意見を深めるのが楽しかった。
- アクセントに苦手意識があったので役立った。
- 沢山取材することが大切だとわかった。
- 先輩方と交流ができてよかった。
- 色々な視点を知ることができた。
- 他の人の原稿を使うことで客観的に添削できた。
- 有意義な時間を過ごすことができた。
- インプットとアウトプットのバランスがよかった。
- 話をしたかった人と話すきっかけができてよかった。
- 全体的に厳しいことが、とてもためになったと思った。
- ディスカッション形式がよかった。
- 交流の時間が多かった点がよかった。
- 話が面白く、本当に楽しかった。
- 原稿の作り方を始めて習った。
- 個人へ取材では、関連する事柄についても取材することが大切だとわかった。
- 文章作成能力が必要だと思った。
- 原稿づくりのコツや自分に不足していることがわかった。
- 自分の弱みをたくさん知ることができた。
- 他校の雰囲気伝わってきた。
- アクセントとイントネーションの違いを理解できた。
- 共通語のしくみがわかった。
- アクセントの原理を知って、苦手意識がなくなった。
- 真剣だけど、気楽に講座を受けることができた、
- 客観的にみることの有効さを実感した。
- 原稿の核を見失っていたことに気づいた。
- 3人（または2人）という人数がちょうどよかった。

<朗読講座>

- 具体的な感想のおかげで、以前の自分より上達することができた。
- 何を大切にしたらいいのか理解できた。
- 声を高くし、少しマイクから離れて話すことが大切だとわかった。
- 一文にも、勢いを感じ取ってはなさなければつまらなくなるということがよくわかった。
- 読み方の速さ、高さ、切り方でこんなにも情景が想像しやすくなるかしみじみ感じた。
- 交流の時間がほしかった。
- 一つ一つの言葉の表現や、音の上げ下げなど細かい説明でとてもわかりやすかった。
- 朗読の表現方法や意識のポイントがよくわかった。
- 知らなかったテクニックを学ぶことができて、とても勉強になった。
- 個人指導の時間がもう少し長くしてほしい。
- 1時間に1回程度の休憩がほしい。
- 具体的な指導でわかりやすかった。
- いつもより指導の時間が長くてよかった。
- 文章の細かい部分を表現する方法をたくさん教わり、表現の幅が広がった。
- 初心者で分からないことだらけだったけど、考えるべきことを理解できた。
- 具体的な改善点がわかりやすかった。
- 自分とは違うタイプの生徒の指導を聞くことが参考になった。
- 「映像が見えるような読み」の表現技法について理解できた。
- 「普段の話し方」がどれだけ大切かわかった。
- 公開講座の後の質問タイムが非常によかった。
- 進行がスムーズで、時間通りに進んだ点がよかった。
- 上手な人がたくさん指摘を受ける姿をみて、自分も頑張ろうと思った。

<番組講座>

- 複数名で話合って番組を作る経験は初めてで、とても面白く勉強になった。どのような考え方で番組を作るのか、制作上の注意など知りたいことを知れて良かった。
- グループ作業によって、楽しみながら技術を身に着けることができた。
- ディスカッション形式で他校との生徒とアイデアを出し合うことによって、取材の仕方や考え方などを学べてよかった。スケジュール感についても知れてよかった。
- 構成方法や視点の絞り方などを基礎から学ぶことができた。
- 他校とのグループづくりがよかった。
- 座学以上に学べる点や他校との交流ができる点がよかった。
- 前半をもう少し短くしてほしかった。
- 「アンケートやインタビューばかりの映像や正論で終わる番組は面白くない」ということを意識して今後番組を制作しようと思った。
- フォントや編集の仕方など再度見直そうと感じた。
- 自分の課題が明確になった。どのような道筋で作っていけばよいか、理解できた。
- 他の学校のクオリティーの高い作品を視聴できて、素直に楽しく面白かった。自分が番組を作る時の参考にもできると思った。このような場所に来ることは初めてですが、とても楽しかったです。
- グループ作業だったので、他校との交流もでき、友達の輪が広がったのでよかったと思った。
- 他校の作品をみて、構成や取材の工夫を知ることができて良かった。
- 他校の作品の視聴が参考になった。
- 全体的に交流しやすくてよかった。
- 番組制作をがんばりたいと思った。

<全体・その他>

- 全員で交流がしたい。
- 次のNコンをがんばりたい。
- テレビドラマ講座があるといいです。
- 朗読・アナウンスが両方聞けてよかった。
- 他の部門も聞くことができたことがよかった。
- 交流ができてよかった。
- こまめに休憩があったので、トイレに行きやすくてよかった。
- 次年度への弾みとなるような大会・講座だった。
- 他校の読みを聞くことができてよかった。刺激になった。
- 午前と午後になってもいいので、個人の時間を増やしてほしい。
- 基礎練習や声の出し方について教えてほしい。
- 個別講座や立ちマイクでの講座がほしい。
- 抽出の選び方のコツを知りたい。
- 放送部に入って初めてのイベントだったが、とても楽しかった。
- 初めて参加したが、とてもよい経験になった。また参加したい。

高校生のための放送技術講座（４）実施報告

[1] 会場・日程

1月26日（日） 相愛高等学校

9：30～10：00 受付

10：00～12：30 午前の部（朗読・ドキュメント講座）

13：30～16：00 午後の部（アナウンス・ドラマ講座）

[2] 講座内容

アナウンス（午前）・朗読講座（午後）

どちらも、模擬審査・交流会→グループワークの順で実施しました。

持参原稿または共通の課題を使って、顧問の先生方にご協力いただき、研鑽を深めました。

番組講座

午前 ドキュメント相談会・ビギナー向け講座

講師 井村慎介先生（関西テレビ放送）

第72回NHK杯に向けた番組相談会を実施しました。コンテストに向け、企画書をブラッシュアップして番組制作に弾みをつけることが主な目的でした。

午後 ドラマ脚本制作講座・ビギナー向け講座

講師 堤 元子 先生（愛媛県立松山東高校）

はじめてドラマを制作する生徒むけに、テーマの探し方やストーリーの作り方、脚本の作り方などをワークショップ形式で学びました。

[3] 参加数

参考総数20校 生徒75人 顧問24人

午前 アナ 生徒34 顧問6 朗読 生徒45 顧問12 ドキュ 生徒19 顧問9

午後 ドラマ 生徒22 顧問12

〔4〕アンケート結果（抜粋）

<アナウンス講座>

- 文末を落とすことが難しいので、普段から低い声をだせるようにしたい。
- フリートークをもっとスムーズに会話できるようにがんばりたい。
- 聞いてもらう時間が少し短くて、思ったよりも聞いてもらえなかった。
- ネタを見つけるためのコツが得られた。
- アナウンスと朗読の違いがよくわかった。
- 直感にたよらず、きちんと理屈だてた読みにしたいと思った。
- 自分の読みのクセを知ることができた。
- 最初は恥ずかしかったけど、丁寧に教えてもらえてよかった。
- アナウンスの注意点や原稿のポイントなどを学ぶことができた。
- ポーズの練習方法や意識の仕方を教えてもらえて助かった。
- 「相手を意識する」大切さが理解できた。
- 基本のダウンステップや伝える意識など、たくさん勉強になった。
- 文の内容を理解することが大切だとわかった。
- グループでの話し合いが楽しかった。

<朗読講座>

- 読みを指導してもらう時間があってよかった。
- 模擬審査がすごく難しかった。審査員の気持ちがわかった。
- 交流の時間が長めでよかった。
- 自分では思いつかない意見が聞けてよかった。
- 『泥流地帯』が難しかった。
- 話合いの時間が適宜設けられていて、寂しくない空間でよかった。
- 基本的な説明のあとで個人指導があったので、よかった。
- 有益な指導をたっぷり受けられてよかった。
- 自分でもある程度練習をしてくればよかった。
- グループで話しやすかった。
- 朗読は、ただ読めばよいものだと思っていた。様々な工夫が必要だとわかった。
- 審査のポイントを聞くことができた。
- 交流が楽しかった。
- 朗読のスキルが全くない状態だったが、みんなと関わってよかった。
- 「番号・名前に感情をこめるべきか」という疑問に納得した答えを得ることができた。
- イントネーションや声量などの基本以外にも、人物理解や場面理解が大切だということがわかった。
- 思っていたより楽しかった。
- 講座の内容のほとんどをメモしました。今後に生かしていきたい。
- 日頃抱いていた疑問をたくさん解決できた。
- 模擬審査がよい経験になった。
- 他の学校の様子が知れたで良かった。
- 審査の基準を知ることができてよかった。
- 全体の雰囲気がよくて、やりやすかった。
- 朗読について、はじめて本格的に学ぶことができた。
- ドラマチックな朗読と他の違いをすることができた。
- グループワークがメインで交流ができてよかった。
- 自分の知らない知識をたくさんもらえた。

- 審査の理由など納得できた。
- 読みやすい雰囲気、交流しやすい雰囲気で、参加してよかった。
- 朗読と演劇は違う！ということがわかった。
- 話す以上に「聞く」ことが大切だとわかった。
- 模擬審査を通して、リスナー目線の意見がよくわかった。
- これからもこの企画を続けてほしい。
- 生徒1対1で読みあう形式の方が自分をよく知れると思った。
- 朗読の読み方もアナウンスで使えるものがあって、参考にして自分の読みにつなげたい。

<ドキュメント講座>

- 高校生の企画について、プロの目線で話を聞いてもらって、自分の技術力も上がったと思った。
- まだまだ詰めが甘かったことに気づいた。
- 基礎から構成まで深く学ぶことができた。
- 撮影より先に人間関係を築かないと深い話もきけないということに気づいた。
- またこの方式で実施してほしい。
- これからの制作の見通しをたてることができてよかった。
- アイディアだけで企画書を提出したことに後悔している。
- 交流会がほしかった。
- 技術だけでなく、心構えも学べてよかった。

<ドラマ講座>

- ドラマの基本を知ることができた。
- 想像以上に細かくて驚いた。
- グループ内で考える時間がもう少しほしかった。
- ラジオとテレビの違いに気づくことができた。
- ドラマの構成についてよくわかった。
- 色々な作品を見ることができてよかった。
- 羅生門の解釈だけで勉強になった。
- 筋の構成が6つあって、それがあるだけで見ごたえ聴きごたえがあるドラマになるということがわかった。
- プリント形式でとてもわかりやすかった。
- 構成や話題の展開の仕方を知ることができた。
- 文章からテーマや伝えたいことを読み解く難しさを知った。
- 基本から聞けてよかった。質問ができて、とても参考になった。
- 初参加だったが、他の人と交流する機会もあり、楽しめた。
- 意識するポイント、タイトル、構成の作り方など参考になった。
- 一つのセリフだけで、どんなジャンルにも変わることができるということがわかった。
- ストーリーの深め方や組み立て方を学ぶことができてよかった。

<全体・その他>

- 過去の番組をみてアドバイスする講座
- 事前に音声の動画を送り、評価をいただくシステムがあると助かる。
- Nコン課題の参考にしたいので、お手本として一度よんでもらえると助かる。
- 基礎から応用まで幅広く学ぶことができた。
- 「伝える」ということについて深く考えさせられる講座だった。
- 交流が楽しかった。

- 2種類の講座を受講できた点がよかった。
- 生徒だけの読みあいの機会がほしかった。
- 他校との交流の機会があってよかった。
- ドラマやドキュメントの両方に使える撮影の講座をひらいてほしい。
- ドラマ講座を開いてもらえたので良かった。
- グループワークで交流できてよかった。
- ずっと話を聞くだけでなく、自分で考えて書く方式だったことがとてもよかった。
- 撮影のスケジュールや編集のコツなどがわかってよかった。
- アイスブレイクの時間が少なくて、交流があまりできなかった。
- 交流の時間がもっとあってもよかった。
- アナウンス・朗読のどちらにするか迷っていたけど、この講座で決めることができた。
- 色々な顧問の先生にアドバイスをいただける機会があると嬉しい。
- アナウンスと朗読で同じ進行なら、混合しても問題ないと思った。
- マンツーマンの読みの指導がとてもよかった。
- 今回のような、色々な先生に交流できる機会を作ってほしい。
- また参加したい。
- いつもモチベーションになる。

第71回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会の報告

放送コンテスト委員会

表題の大会について、報告をします。

予選	番組部門	6月1日(土)	データによる非公開審査
	アナウンス・朗読部門	6月2日(日)	公開審査 会場：阪南大学高等学校

決勝	全部門、研究発表	6月9日(日)	公開審査 会場：相愛高等学校
----	----------	---------	----------------

予選	参加校（エントリー）	39校	アナウンス	62名	朗読	135名
	番組	ラジオドキュメント	6作品			
		テレビドキュメント	9作品			
		ラジオドラマ	13作品			
		テレビドラマ	7作品			
		研究発表	1作品			

※参加校とその内訳はあとの表1に、
朗読作品の作品別参加数は表2に示します。

決勝

〔アナウンス決勝課題〕

大阪・高槻市は、ことし10月に「関西将棋会館」が完成するのに合わせ、会館の隣にファンや地域住民向けに公園を整備するなど、「将棋のまち」をアピールする取り組みを強化することになっています。

日本（にほん）将棋連盟の西日本の拠点である関西将棋会館は、老朽化に伴って大阪・福島区から高槻市に移転し、ことし10月に完成する予定です。

高槻市は、これまでに江戸時代の将棋の駒が数多く見つかり、「将棋のまち」をアピールしてきましたが、移転によって多くのファンが訪れることが見込まれるため、さらに取り組みを強化することになりました。

具体的には、▼会館の隣に将棋の駒に使われる「ツゲ」の木が植えられた公園を整備するほか、▼最寄り駅となるJR高槻駅の地下通路の壁を、将棋盤をイメージしたデザインに一新します。

高槻市将棋のまち推進課は「民間とも連携しながらプロモーション活動に力を入れて、将棋を通して地域の活性化につなげていきたい」と話していました。

〔朗読決勝課題〕

母は言いました。

「あんたがいつも一生懸命で、誰よりも練習していたことや、病気になっても腐らずにいつも前向きで、『絶対に野球をやる』という目標のためにつらい治療にも耐えてきたことを神様が見てくださったんだよ」

僕も思います。

「あの引退試合のバックホームは、まさしく神様が導いてくれたのではないかな」

そういう気がするのです。

「横田、野球の神様って、本当にいるんだな」

奇（く）しくも鳥谷さんがそう言ってくれましたが、僕も思うのです。

「あれは神様の思（おぼ）し召（め）しだったんじゃないか。神様が僕の背中を押してくれたんじゃないかな」

（横田慎太郎 「奇跡のバックホーム」より）

審査員〈敬称略〉

＜アナウンス・朗読部門＞

秋鹿真人（NHK大阪放送局）、小畑敦彦（大阪府立平野高校長：高視研会長）、伊藤元也（四天王寺東高校：高視研役員）、鎌田 潤（元放送コンテスト委員長）、田中亜佐美（大阪府立東高校）、安田知博（「放送部インストラクター」）原稿・計時 山口美咲（大阪府立布施北高校：高視研役員）

＜番組制作部門＞

押田友太（NHK大阪放送局）、浜田佳樹（大阪府立成美高校長：高視研副会長）、久下哲也（大阪府立池田高校：高視研役員）、阪本純治（桃山学院高校：高視研役員）、姫路裕敏（大阪府立福井高校：高視研役員）、藤田大輔（阪南大学高等学校：高視研役員） 権利関係など規定・計時 酒井 学（大阪府立堺西高校：高視研役員）

決勝の結果は、表3に示します。

前回とくらべて、エントリー校が減少しました。（前回49校）また、前回と比べてアナウンス、テレビドキュメント、ラジオドラマ、テレビドラマでエントリー作品が増えました。（前回 アナウンス50名、朗読160名 ラジオドキュメント6作品 テレビドキュメント7作品 ラジオドラマ8作品 テレビドラマ8作品 研究発表1作品）

朗読へのエントリーはやはり多いです。毎年触れているのですが、アナウンスも朗読も全国大会には6名しか推薦できません。各県の傾向も朗読へのエントリーが多いのですが、確率論ではありませんが、アナウンスのほうが有利なところもあります。もう少しアナウンスのエントリーが増えればと思います。また、大阪大会だけではなく、全国大会の講評でも触れられたのですが、台詞だけでなく「地の文」も丁寧に扱ってもらいたいという意見も審査員から聞かれました。

番組では、ドキュメントのエントリーは今回も増加しました。これは、近年の放送技術講座での「ドキュメント講座」の成果のひとつと考えます。

今回、予選は番組は非公開審査でしたが、アナウンス・朗読は公開審査で行いました。生徒さんはまったく初めて、また会場係をお願いした顧問の先生方も久しぶりでしたので、戸惑いもあったようですが、「公開審査でよかった」という声を多く伺いました。次回以降もより効率よく運営できるよう工夫していきたいと思います。

運営について、予選では、参加校の顧問の先生方に審査をお願いしました。土曜日の審査では、私立高校は土曜日に授業を行っている学校が多いので、府立高校の先生方を中心に審査員をお願いしました。一部の府立高校での「土曜授業」などのために変更が何名かありましたが、無事に終わりました。

決勝も昨年のように、結果発表まで当日にできました。

「校内放送活動研究会」では、NHKの秋鹿アナ、押田プロデューサーに、決勝の講評に加えてアドバイスをいただき、質疑応答では丁寧な指導もいただきました。押田プロデューサーには、ドラマの企画や撮影時の裏話も聞かせていただきました。秋鹿アナはアナウンス・朗読の決勝課題について、見本（模範演技）も見せていただきました。

今回の運営を振り返り、次回に向けて検討していきたいと思います。今回は決勝の司会をアナウンス部門または朗読部門の全国大会に進出した卒業生にお願いしようと考えております。こちらもおよそ5大会ぶりになるかと思います。

表3にもありますように全国大会では、アナウンス・朗読から5名、ラジオドキュメント1作品、ラジオドラマ1作品が準決勝に進み、朗読1名が決勝に進みました。今回も生徒さんの普段の努力が、目に見える形で現れました。このあとの各校の活躍に期待したいと思います。

（大阪夕陽丘学園高等学校 中井勝久）

表1 第71回 NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会 参加状況一覧

受付 番号	学 校 名	略 称	代表顧問	参加 人数	研究発表会		アナウンス		朗 読		ラジオドキュメント		TVドキュメント		合 計		略 称	受付 番号										
					参加	決勝 代表	参加	決勝 代表	参加	決勝 代表	参加	決勝 代表	参加	決勝 代表	参加	決勝 代表			参加	決勝 代表								
1	宣真	宣 真	清水 明澄	3			3								3		宣 真	1										
2	関西学院千里国際	千里国	菊池 康貴	4					4	2					4	2	千里国	2										
3	府立市岡	市 岡	野崎 優衣	5			1								1		市 岡	3										
4	府立箕面	箕 面	松田 朋子	7			2	2	1	1	1				3	3	箕 面	4										
5	府立登美丘	登美丘	嶋野 滋子	4					1						1		登美丘	5										
6	府立北野	北 野	穴井 友知	11					3	1					3	1	北 野	6										
7	府立いちりつ	府いち	秋本 みゆき	10			1	1	1	5	3	1			7	4	府いち	7										
8	アサンブション国際	アサ国	濃口 昌紘	4					4	1					4	1	アサ国	8										
9	府立榎の木	榎の木	赤銅 竜	11			3			1	1				5	2	榎の木	9										
10	府立池田	池 田	久下 哲也	10			4	3	1						4	3	池 田	10										
11	府立みどり清朋	みどり	藤原 隆志	4			1		2						3		みどり	11										
12	桃山学院	桃 山	井本 和寿	25			5	5	1	11	7	1	1	1	20	15	桃 山	12										
13	大阪夕陽丘学園	夕陽学	中井 勝久	8			1			4					5		夕陽学	13										
14	梅花	梅 花	竹内 一真	12			1			10	3				11	3	梅 花	14										
15	府立天王寺	天王寺	我那覇 剛	13						5	1				5	1	天王寺	15										
16	四天王寺	四 天	水上 龍太郎	30			4	1		13	1	1	1	1	19	3	四 天	16										
17	大阪国際	国 際	横島 勇司	5			1		1						2		国 際	17										
18	府立泉陽	泉 陽	坂井 佳奈	12			3								3		泉 陽	18										
19	常翔学園	常 翔	常盤 幸利	21						1				1	2		常 翔	19										
20	ブルー学院	ブルー	長光 明子	13				4	2	1	5	1			10	3	ブルー	20										
21	東海大付属大阪仰星	仰 星	阿部 守勝	10			3	1							3	1	仰 星	21										
22	常翔啓光学園	常 翔	湊 康佑	18			2								2		常 翔	22										
23	府立東	東	田中 亜佐美	6						5	2				5	2	東	23										
24	府立旭	旭	中崎 洋	6						5					6		旭	24										
25	府立今宮工科	今宮工	伴 慎一	9								1	1	1	2	2	今宮工	25										
26	相愛	相 愛	佐治 良輔	14	1	1	1	5	4	5	5	4	1	1	14	13	相 愛	26										
27	府立堺西	堺 西	酒井 学	6			1			4			1		7	1	堺 西	27										
28	府立豊中	豊 中	明政 真司	15			2	1							2	1	豊 中	28										
29	関西大倉	大 倉	三輪 淳司	14						2					2		大 倉	29										
30	大阪信愛学院	信 愛	島 敏	17			3			13					17		信 愛	30										
31	履正社	履正社	太田 直晃	11			1			4					5		履正社	31										
32	堺リベラル	堺リベ	森畑 由美子	20									2	1	2	1	堺リベ	32										
33	(欠番)	-													0		-	33										
34	大阪学芸	学 芸	櫻並 徳次	3						3					3		学 芸	34										
35	箕面自由学園	箕面自	林 聖太	13			3			8		2	1	1	20	4	箕面自	35										
36	帝塚山学院	帝塚山	大賀 陽子	6			1			2					3		帝塚山	36										
37	四天王寺東	四天東	伊藤 元也	10			5	2	1	1	1				7	4	四天東	37										
38	近畿大学附属	近大附	渡上 太朗	17						1					2		近大附	38										
39	浪速	浪 速	山本 武彦	15			1	1		11	6	1		1	13	8	浪 速	39										
40	阪南大学	阪南大	藤田 大輔	4			1					1			2		阪南大	40										
	学 校 数			39	1	1	1	26	11	6	29	15	3	5	5	4	8	5	4	10	5	2	5	3	2	39	22	13
	総 数			465	1	1	1	62	23	6	135	36	6	6	5	4	9	5	4	13	5	2	6	3	2	232	78	25

表2 第71回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会
朗読作品および作品別参加数

作品番号	著者	作品名	参加数
1	三浦 綾子	「泥流地帯」	14
2	よしもと ばなな	「小さな幸せ46こ」	68
3	村上 春樹	「レキシントンの幽霊」	39
4	ジャイムズ・ヒルトン/白石 朗 訳	「チップス先生、さようなら」	12
5	(作者未詳)	「大鏡」	2

表3 第71回NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会 決勝 結果

アナウンス部門

	審査順	学校名	生徒名前	全国大会
1位	18	府立箕面	寺尾 結梨	
2位	9	四天王寺東	高木 詩歩	
3位	5	府立いちいつ	道家 晴菜	入選(準決勝進出)
4位	19	プール学院	奥田 栞永	入選(準決勝進出)
5位	20	府立池田	徳山 莉奈	
6位	17	桃山学院	本間 健八	
入選	2	府立池田	中山 大地	
入選	6	桃山学院	金沢 紋伽	
入選	12	府立池田	山下 芽泉	
入選	14	浪速	山本 怜生	

ラジオドキュメント部門

	審査順	学校名	作品名	全国大会
1位	4	府立堺西	詠る君へ	
2位	3	相愛	47歳の新人先生	入選(準決勝進出)
3位	5	箕面自由学園	「ダメ。ゼッタイ。」を考える	
4位	2	四天王寺	時間がない！！	
入選	1	桃山学院	8000km先から	

テレビドキュメント部門

	審査順	学校名	作品名	全国大会
1位	5	相愛	ポールダンスと叫ばないで	
2位	3	桃山学院	図書館の今、そしてこれから	
3位	2	箕面自由学園	1年3組	
4位	4	府立今宮工科系		
入選	1	四天王寺東	#セキュリティの関係上、写せません	

朗読部門

	審査順	学校名	生徒名前	全国大会
1位	11	相愛	山本 有里	優良(決勝進出)
2位	35	府立箕面	福本 稜馬	入選(準決勝進出)
3位	5	相愛	木村 音葉	
4位	22	相愛	林 夏香	
5位	14	浪速	高木 咲月	入選(準決勝進出)
6位	17	相愛	藤 恵真	
入選	4	浪速	山田 元気	
入選	12	関西千里	芝川 あさ	
入選	15	アガジャ国際	井上 愛彩	
入選	16	梅花	井倉 由翔	
入選	29	相愛	浜本 茉莉	

創作ラジオドラマ部門

	審査順	学校名	作品名	全国大会
1位	2	桃山学院	生命の講座	入選(準決勝進出)
2位	4	府立槻の木	スイッチON	
3位	1	箕面自由学園	天地ヲ返セ！究極のマシマシ！	
入選	3	堺リベラル	反抗期	
入選	5	府立今宮工科	消費者	

創作テレビドラマ部門

	審査順	学校名	作品名	全国大会
1位	2	箕面自由学園	優	
2位	3	相愛	ここにいる	
3位	1	浪速	リスタート	

校内放送研究発表会

審査順	学校名	発表名	全国大会
研究奨励 1	相愛	最後の一文、どうします？	研究奨励賞

総合優秀校

	得点	学校名
1位	99	相愛
2位	68	桃山学院
3位	63	箕面自由学園

芸文祭 報告

(「第45回大阪府高等学校芸術文化祭 放送文化部門」報告)

第45回大阪府高等学校芸術文化祭は、令和7年1月25日(土)の開会行事部門を皮切りに、大東市立総合文化センターなどを会場として開催されました。

放送文化部門はこれに先駆け、令和6年11月3日(日)に桃山学院大学あべのキャンパスで開催しました。

午前中にアナウンス・朗読、番組部門の発表と審査を行いました。これは、次年度7月30日(水)～7月31日(木)に香川県で行われる第49回全国高等学校総合文化祭香川大会(かがわ総文2025)における大阪府代表の選考を兼ねています。

午後は当日の発表をふまえた放送技術講座を実施しました。放送技術講座については、「第3回高校生のための放送技術講座」のページをご参照ください。

09:30～10:00 受付

10:00～10:15 開会式

10:20～12:50 アナウンス部門・朗読部門・番組部門公開審査

13:50～15:50 放送技術講座(アナウンス・朗読・ドキュメント)

16:00～16:30 結果発表・表彰・閉会式・代表推薦者・推薦校への連絡

参加校は20校、アナウンス30名、朗読33名、ラジオ番組3作品、テレビ番組11作品、番組自由部門1作品でした。

アナウンス部門

優秀賞	吉田 美鈴(相愛)、木村 音葉(相愛)、奥田 栞永(プール)、
奨励賞	大乘 悠花(府立箕面)、徳山 莉奈(池田)、高木 詩歩(四天王寺東)

朗読部門

優秀賞	萩原 綾乃(いちりつ)、五十嵐 愛桜(相愛)、東浦 愛夏(桃山学院)
奨励賞	藤 恵真(浪速)、石川 日菜(四天王寺東)、波部 さやか(相愛)

ラジオ番組部門

優秀賞	「北御堂へ、ようこそ」(相愛)
奨励賞	「愛染さん」(四天王寺)

テレビ番組部門

優秀賞	「行こうや、新世界へ。」(桃山学院)、「憩いの場で感じる1500年」(池田)
奨励賞	「男もすなる浄瑠璃といふものを」(四天王寺東) 「東大阪 ものづくりの街から」(プール) 「スカッとSDGs」(箕面自由)

なお、今年も例年どおり、開会行事(1月25日(土))の司会進行および部門紹介(録音)は、放送文化部門のアナウンス部門での優秀賞・奨励賞受賞者が担当しています。

近総文報告

(「第44回近畿高等学校総合文化祭(福井大会)放送部門」報告)

第44回全国高等学校総合文化祭福井大会は、令和6年11月24日(日)に、福井市の福井県国際交流会館内 多目的ホールで開催されました。

大阪府からは下記の出場者、出場校が代表として参加し、1名が優秀賞を受賞しました。

アナウンス部門

中山 大地(池田) 金沢 紋伽(桃山学院)

朗読部門

井倉 由翔(梅花) **優秀賞** 芝川 あさ(千里国際)

ビデオメッセージ部門

届け、8000km 先へ(桃山学院・制作代表 國次 菜月)

和んで、飲んで、仲間とともに(四天王寺東・制作代表 仲村 心花)

全総文報告

(「第48回全国高等学校総合文化祭(岐阜大会)放送部門」報告)

第48回全国高等学校総合文化祭「ぎふ総文」放送部門は、令和6年8月2日(金)～3日(土)に、多治見市のバロー文化ホールで開催されました。

大阪府からは下記の出場者、出場校が代表として参加しました。1名が優秀賞、1名が特別賞を受賞しました。

アナウンス部門

山下 芽泉(府立池田) **特別賞** 木村 音葉(相愛) 寺尾 結梨(府立箕面)

朗読部門

東浦 愛夏(桃山学院) **優秀賞** 山本 有里(相愛) 福本 稜馬(府立箕面)

オーディオメッセージ部門

「未来への希望」(相愛・制作代表 木村 音葉)

ビデオメッセージ部門

「浪花のシンボル」(相愛・制作代表 見米 珠季)

「第一回足祭り」(箕面自由・制作代表 篠田 来未)

第73回近畿放送教育研究大会

第2次案内

第74回近畿学校視聴覚教育研究大会 兵庫大会

自ら高まる 深まる 学びの育成

～ICT機器 1人1台端末を効果的に活用した学びの創造～



2024年11月22日(金)

参加費
無料

全体会

公開授業
7本公開

神戸市立なぎさ小学校

兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通2-4-1 ☎078-252-5611



公開授業
2本公開

兵庫県立尼崎北高等学校

兵庫県尼崎市塚口町5-40-1



午前

公開授業
授業検討会

午後

研究実践交流会
全体会
パネルディスカッション

※教材・機材体験展示会は終日開催いたします

同時開催：eスクール ステップアップ・キャンプ2024 / 11月22・23日
(文部科学省共催 教員向けICT研修会)

- 主催 日本学校視聴覚教育連盟 近畿放送教育研究協議会 近畿学校視聴覚教育連盟 兵庫県視聴覚教育研究協議会
- 共催 全国放送教育研究会連盟 NHK神戸放送局 一般財団法人NHK財団
- 後援 文部科学省 こども家庭庁
大阪府 京都府 滋賀県 兵庫県 奈良県 和歌山県 大阪市 京都市 神戸市 堺市
大阪府教育委員会 京都府教育委員会 滋賀県教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会
大阪市教育委員会 京都市教育委員会 神戸市教育委員会 堺市教育委員会 (後援名義使用承認申請中)

■プログラム概要

公開授業会場(午前)・・・神戸市立なぎさ小学校・兵庫県立尼崎北高等学校、全体会場(午後)・・・神戸市立なぎさ小学校

・小学校、幼稚園、特別支援学校(学級)の部(会場:なぎさ小学校) *小学校は7本公開(1～6学年各1、特別支援学級1) / 午後の部(全体会 会場:なぎさ小学校)

受付	公開授業 (2校時)	移動	研究討議	昼食	研究実践交流会	移動	開会 行事	パネルディスカッション	閉会 行事
9:20	9:45	10:30	10:45	11:30					
・中学校、高等学校の部(会場:尼崎北高等学校) *高校は2本公開(高2英語、国語)									
受付	公開授業 (2校時)	休憩	移動	教材・機材体験展示会(終日開催) ※なぎさ小学校体育館にて企業展示をご自由にご覧いただけます。					
9:00	9:40	10:30	10:50	11:30	13:00	14:10	14:30		16:30

- 開催方法
対面型で実施。(授業、研究討議、研究実践交流会)
- 公開授業
幼稚園、特別支援学校、中学校の授業公開はありませんが、両会場とも授業は校種に関係なくご覧いただけます。
なお、なぎさ小会場では特別支援学級の授業公開を予定しています。
- 研究実践交流会
近畿各地の研究実践発表。(幼稚園2、小学校8、中学校2、高校2、特別支援学校・特別支援学級学級2)
- パネルディスカッション テーマ「本音で語る今のGIGA⇒NEXTGIGAへ」
コーディネーター 神戸市立なぎさ小学校 校長 氣賀 諭志 氏
パネリスト 小学校教員、高等学校教員、教育委員会指導主事、ICT 関連業者
コメンテーター 園田学園女子大学 教授 堀田 博史 氏

■アクセス情報

● 神戸市立なぎさ小学校 (小学校・特別支援学級公開授業、研究実践交流会、全体会)

〒651-0073

兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通2-4-1

TEL:078-252-5611

阪神電車「春日野道」駅下車 徒歩8分(駅から地下道を通ります)

※お車の場合は近隣の民間駐車場をご利用ください。



● 兵庫県立尼崎北高等学校 (公開授業)

〒661-0002

兵庫県尼崎市塚口町5-40-1

阪急神戸本線「塚口駅」下車 徒歩11分



参加費
無料

<https://www.javea.or.jp/eschool/2024.html#hyogo>

※上記 URL から申し込みページへアクセスし、申し込みください。



【問い合わせ先】

兵庫県視聴覚教育研究協議会 事務局長 田淵 宏樹(神戸市立本山第一小学校)

TEL:078-411-1974 FAX:078-411-1975

Mail:hir-tabuchixa@kobe-c.ed.jp

公開授業 会場：神戸市立なぎさ小学校

9:45～10:30

授業クラス	教科	単 元 名	授業者	研究協力員
1年1組	国語	お気に入りのじどう車を ともだちにじまんしよう	川越 雅美	南波 さくら 神戸市立魚崎小学校 近江 佑太 神戸市立舞子小学校 樋口 麻子 神戸市教育委員会事務局
2年1組	生活	町のすてき つたえたい～HATの町じまん 大はっけん～	加藤 佳苗	川崎 みなみ 神戸市立西須摩小学校 山崎 優馬 神戸市立こうべ小学校 空井 淳子 神戸市教育委員会事務局
3年1組	道徳	く・う・は・く時間(公正・公平・社会正義)	河合 慶子	竹村 恵 神戸市立夢野の丘小学校 兼井 誠二 神戸市立本山第二小学校 宮地 悦子 神戸市教育委員会事務局
4年1組	社会	兵庫県の特徴ある地域に住む人々	川上 雄大	逸見 学 神戸市立中央小学校 高田 健太 神戸市立夢野の丘小学校 澤田 祥司 神戸市教育委員会事務局
5年1組	算数	四角形と三角形の面積	門馬 恵	青谷 由佳 神戸市立成徳小学校 三宅 晴樹 神戸市立下畑小学校 藤本 到 神戸市教育委員会事務局
6年2組 (図工室)	図工	伝えよう HAT神戸のステキ	大嶋 恵美	久保田 智子 神戸市立若草小学校 松村 翼 神戸市立東舞子小学校 西上 靖彦 神戸市教育委員会事務局
なのはな (特別支援学級)	国語	クイズマスターになろう	井上 貴雄 肥塚 由紀 鳥山 裕美	中山 麻里 神戸市立和田岬小学校 梅崎 祐次 神戸市立夢野の丘小学校 八木 清香 神戸市立西脇小学校 中井 貴章 神戸市教育委員会事務局

公開授業後、研究討議を行います。

申し込み多数の場合は、申し込み期間中でも応募を締め切る事があります。予めご了承ください。

公開授業 会場：兵庫県立尼崎北高等学校

9:40～10:30

授業クラス	教科	単 元 名	授業者
2年4組	英語	Lesson7 Why Biomimicry?(English Communication II)	重松 晶子
2年5組	国語	漢文 史記(古典探究)	尾崎 照久

申し込み多数の場合は、申し込み期間中でも応募を締め切る事があります。予めご了承ください。

研究実践交流会 会場：神戸市立なぎさ小学校

13:00～14:10

プログラムの詳細は3ページをご覧ください。

全体会・パネルディスカッション・閉会行事

14:30～16:30

パネルディスカッション テーマ

「本音で語る 今の GIGA ⇒ NEXT GIGAへ」

コーディネーター	氣賀 諭志	(神戸市立なぎさ小学校 校長)
パネリスト	増田 優介	(神戸市立乙木小学校 教諭)
	白井 美弥子	(兵庫県立伊丹北高等学校 教諭)
	中井 貴章	(神戸市教育委員会事務局 指導主事)
	大久保 昇	(一般財団法人 日本視聴覚教育教育協会 会長)
コメンテーター	堀田 博史	(園田学園女子大学 教授)

「GIGA」の現状、これからの「GIGA」について、本音で語ります。

教材・機材体験展示会

10:00～16:30

なぎさ小学校体育館にて終日開催しています。

研究実践交流会 会場：神戸市立なぎさ小学校

【保育所(園)、幼稚園、こども園】

校種	提案テーマ	提案者	助言者	司会者	記録者
保育所(園)	タブレットを効果的に活用し、幼児の学びを広げ、深める	横山 瞳 星川 明美 (芦屋市立宮川幼稚園)	井岡 祥一 (芦屋市立山手小学校)	末光 加奈子 (芦屋市教育委員会)	内藤 純子 (芦屋市立岩園幼稚園)
幼稚園 こども園	幼児が主体的に活動する中で興味や関心をさらに深めていくための放送・メディア教育に取り組もう～いろいろな視聴覚教材を活用してこどもの探求心や知的好奇心をくすぐる～	松田 綾子 (天理市立前栽こども園)	濱崎 由昭 (近畿放送教育研究協議会 講師 全放送「放友会」近畿理事)	坂田 陽子 (天理市立前栽こども園)	十川 弥美 (天理市立柳本幼稚園)

【小学校】

校種	提案テーマ	提案者	助言者	司会者	記録者
小学校①	授業における「思考・判断・表現」ツールとしてのタブレット活用～積極的アウトプットと効果的ディスカッション～	井口 伸吾 (兵庫県立波賀小学校)	岡田 滋久 (兵庫県教育委員会)	庄 健裕 (兵庫県立波賀小学校)	船元 紗矢香 (兵庫県立山崎小学校)
	知識理解と共に、思考・表現する力も端末活用によって伸ばす算数『かけ算』の実践を通して	大松 有香 (京都市立藤城小学校)	津高 修一 (京都市総合教育センター)	伊藤 浩良 (京都市立小栗栖宮山小学校)	伊藤 浩良 (京都市立小栗栖宮山小学校)
小学校②	自ら課題を設定し、探究する授業～GIGA端末を活用した実践を通して～	佐伯 友嘉 (神戸市立宮本小学校)	藤原 雅弘 (神戸市教育委員会事務局 教科指導課指導主事)	柘植 裕貴 (神戸市立山田小学校)	八木 清香 (神戸市立西脇小学校)
	多様性を尊重できる力の育成を目指して～U&Iを活用して～	仁儀 誠 (和歌山市立東山東小学校)	藤原 ゆうこ (和歌山市立高松小学校)	三谷 崇浩 (和歌山市立藤戸台小学校)	木下 雄生 (和歌山市立東山東小学校)
小学校③	生成AI時代に向けた情報活用能力の育成～ChatGPTを活用した授業実践を通して～	三輪 勇喜 (姫路市立勝原小学校)	三野 英利 (姫路市教育委員会)	岡本 圭史 (姫路市立網干小学校)	入江 伸弥 (姫路市立大塩小学校)
	ロイロノート・スクールで広げる深める学級経営	川満 和磨 (草津市立第二小学校)	堀江 和男 (草津市立南笠東小学校)	宮嶋 貴憲 (草津市立草津第二小学校)	宮嶋 貴憲 (草津市立草津第二小学校)
小学校④	「つながり」の中で、学ぶ～クラウド環境の活用～	藤原 高史 (西脇市立桜丘小学校)	安本 靖史 (兵庫県立総合教育センター 主任指導主事 兼 情報教育研修課長)	柳川瀬 輝彦 (西脇市立桜丘小学校)	上井 千里 (西脇市立西脇小学校)
	平和な世の中にするために自分にできること～広島での学びから～総合的な学習における協働学習ツールやNHK for Schoolの活用	田中 光至 (大阪市立神津小学校)	原田 哲次 (大阪市立小松小学校)	貴村 亮太 (大阪市立加島小学校)	山田 真衣 (大阪市立阿倍野小学校)

【中学校】

校種	提案テーマ	提案者	助言者	司会者	記録者
中学校	「KYOTO×教育 DX1人1台端末が切り開く授業の姿」	八藤 由之 (京都市立深草中学校)	久保 泰雄 (京都市立朱雀中学校)	高橋 利華 (京都市立深草中学校)	高橋 利華 (京都市立深草中学校)
	タブレットを用いた個別最適な学びに向けて	加々見 良 (奈良市立登美ヶ丘北中学校)	野々村 テル (山添村立山添中学校)	小柳 亮 (郡山市立郡山中学校)	岡本 真樹 (郡山市立郡山中学校)

【高等学校】

校種	提案テーマ	提案者	助言者	司会者	記録者
高等学校	放送部活動のめざすもの	大江 真理 (兵庫県立東播磨高等学校)	鄒 真砂美 (兵庫県教育委員会事務局 高校教育課 主任指導主事)	高井 輝基 (兵庫県立兵庫高等学校)	竹内 彩乃 (兵庫県立明石南高等学校)
	Rebreak your Teaching Method	澤田 裕一 (兵庫県立伊丹北高等学校)	鄒 真砂美 (兵庫県教育委員会事務局 高校教育課 主任指導主事)	高井 輝基 (兵庫県立兵庫高等学校)	竹内 彩乃 (兵庫県立明石南高等学校)

【特別支援学校、特別支援学級】

校種	提案テーマ	提案者	助言者	司会者	記録者
特別支援学校 特別支援学級	個に応じた学びを支える1人1台端末運用の実践	貝原 嘉昭 (神戸市立長田小学校)	松下 岳人 (神戸市教育委員会事務局 特別支援教育課指導主事)	今村 隆 (神戸市立名倉小学校)	門脇 衣里 (神戸市立押部谷小学校)
	オリジナルダンスを考えよう～ICT機器を通してプログラミング的思考～	喜多 宏仁 (大和高田市立高田小学校)	北出 忠徳 (奈良市立大安寺小学校)	亀山 正海 (王寺町立王寺南義務教育学校)	橋本 一樹 (広陵町立真美ヶ丘第二小学校)

申し込み多数の場合は、申込期間中でも応募を締め切る事があります。予めご了承ください。

令和6年度 第72回近畿放送教育研究大会 第73回近畿学校視聴覚教育研究大会（兵庫大会）報告

大会主題

「自ら深まる学びの育成～ICT機器 1人1台端末を効果的に活用した学びの創造～」

令和6年11月22日（金） 受付9時20分 終了16時30分

- 主催 日本学校視聴覚教育連盟 近畿放送教育研究協議会 近畿学校視聴覚教育連盟
兵庫県視聴覚教育研究協議会
- 共催 全国放送教育研究会連盟 NHK神戸放送局 一般財団法人 NHK 財団
全国放送教育研究会連盟
- 後援 文部科学省 こども家庭庁 大阪府 京都府 滋賀県 兵庫県 奈良県 和歌山県
大阪市 京都市 神戸市 堺市 大阪府教育委員会 京都府教育委員会
滋賀県教育委員会 兵庫県教育委員会 奈良県教育委員会 和歌山県教育委員会
大阪市教育委員会 京都市教育委員会 神戸市教育委員会 堺市教育委員会

公開授業会場（午前）

授業公開校（小学校）

神戸市立なぎさ小学校
兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通2-4-1

授業公開校（高校）

兵庫県立尼崎北高等学校
兵庫県尼崎市塚口町5-40-1

研究実践交流会会場
全大会会場

神戸市立なぎさ小学校
神戸市立なぎさ小学校アリーナ

・小学校、幼稚園、特別支援学校(学級)の部(なぎさ小学校) *小学校は7本公開(1～6学年各1、特別支援学級1) / 午後の部(全体会)



開催方法

対面型で実施（授業、研究討議、研究実践交流会）

近畿各地の研究実践発表

【幼稚園2、小学校8、中学校2、高校2、特別支援学校(学級)2】

パネルディスカッション

コメンテーター 園田学園女子大学教授 堀田 博史 氏

学校教員、高等学校教員、教育委員会指導主事

ICT関連事業者による「本音で語る今のGIGA⇒NEXTGIGAへ」

参加人数

	幼・保・こ	小	中・高	特支	他	計
大阪府	17	26	10	4	12	69
兵庫県	2	116	24	24	11	177
京都府	0	3	4	0	1	8
滋賀県	0	4	0	0	0	4
奈良県	9	10	3	0	0	22
和歌山県	0	1	0	0	0	1
その他	0	20	10	0	42	72
計	28	170	51	28	66	353

大阪府高等学校視聴覚教育研究会「大阪高視研」公式ホームページのご案内

<https://www.koushiken.jp>

NHK 杯全国高校放送コンテストの要項・申込み、及び結果・講評

高校生のための放送技術講座の要項・申込み、及び結果・講評

優秀作品のストリーミング

リンク集（Nコン公式、NHK クリエイティブライブラリ、JASRAC など）

質問メール用フォーム

高視研総会関係 など

公式ブログ「大阪はひとつ！放送ぶろぐ」も開設しました。

結果速報や諸連絡などの発信を行っています。

<http://blog1.koushiken.jp>

発 行 日	令和7年3月31日
発 行 所	大阪府高等学校視聴覚教育研究会 事務局：池田市旭丘2丁目2番1号 大阪府立池田高等学校内（電話）072-761-1131
発行責任者	小 畑 敦 彦（大阪府立平野高等学校校長）
編集委員	久 下 哲 也（大阪府立池田高等学校）